

伝える力身に付ける

記事の感想発表、意見交換

優秀学校賞

杵築高 杵築市本庄



「情報」の時間などで新聞を使った授業をしている＝22日、杵築高

1、2年の計380人が応募した。コンクールの課題だけでなく、日頃から新聞を使った独自の学習をしていることが「意欲的」と評価を受けた。1年生は4月から「情報」の授業を中心に新聞を活用している。記事を読んだ経験の少ない生徒がいることから、大分合同新聞社から派遣を受けた講師と同校教諭が「読み方講座」を実施。記事の構造を学んだ上で毎月1回、気になる記事を選んで提出。関心のある理由と感想をシートに記入していった。

両親と話し合う
コンクールには夏休みの宿題として取り組んだ。新聞部員の小倉美弥さん(16) 11年・顔写真右は「政治など普段は目を通さない記事を読むことができた」と感想。同部の得丸くるみさん(16) 同左は「生徒による校則の見直しを取り上げた記事を選んだことで、教師をしている両親と話し合う機会が持てた」と振り返る。2学期には選んだ理由と感想をクラスで発表し、意見を交換。記事に対する自分の考えをさらに掘り下げた。2年生は専用のファイル



同部の得丸くるみさん



11年・顔写真右は「政治など普段は目を通さない記事を読むことができた」と感想。



指導する畑野新司教諭

宝探しの楽しさ
記事が載る新聞から興味のある情報を収集していくことは、宝探しのような楽しさにつながるのでは」と新聞ならではの魅力を説明。「学習を通じ、生徒は思いを言葉で表現し伝える力を身に付けた。自分とは異なる意見を聞き、取り入れていく能力を伸ばすことにもつながっている」と成果に手応えを感じている。

(佐藤由佳)

第12回

「いっしょに読もう！」
新聞コンクール



教育に新聞を

<下>



いっしょに読もう新聞コンクール

家族や友人と新聞記事を読んだ感想・意見を日本新聞協会が募り、第12回の本年度は国内の小中学生から計6万4513点の応募があった。県内は2個人・8学校が入賞した。